

訪問型子育て支援事業

取組に至る背景・事業の目的

核家族化、地域社会の希薄化等が進んでいる現在、子育てをしている家庭には、子育てへの不安や悩みを誰にも相談できずにストレスを抱え、愛着障害などの問題も生じている。特に、子育て広場やマタニティセミナー等に出て来られない子育て家庭への支援が課題となっている。

そこで、子育てに関する不安や悩みを一人で抱え込まないよう、地域のボランティアが家庭訪問をし、親の話に耳を傾けながら、育児や家事を一緒に行い、孤独感や孤立感の軽減、コミュニケーションや育児スキルの向上、親の自信の回復などを支援しながら、子育ての楽しさを実感し地域とつながるきっかけをつくる。

事業内容

子育て広場等に出てこられない親子、身近に子育ての不安や悩みを話せる人がいない家庭等に、研修を受けた地域の子育て経験者である子育て支援ボランティアが訪問する「ホームスタート」を用いて子育て支援を行った。

訪問活動は、週に1回、2時間程度、定期的に行い、親の話に耳を傾けながら（傾聴）、育児や家事を一緒に行った。

訪問活動と並行して、家庭訪問を行うボランティアを対象に、活動のフォローアップ、傾聴スキルの向上等を目指し、講座、事例検討会等も行った。



【訪問活動】

事業効果

利用者の多くは子育ての中で孤立を感じていたが、訪問終了後のモニタリング調査の結果では、親の孤立感の解消－充足度 100%、親自身の心の安定－90%、子どもの心の健康－94%などとなっており、孤立感の軽減、親の自信の回復、子育ての楽しさを実感することにつながったといえる。

子育て経験のある地域のボランティアが、対等な関係で傾聴を行うことは、親を元気にし、問題の深刻化を防ぐとともに、地域とつながるきっかけともなった。

工夫・苦勞した点、課題、今後の取組など

訪問型子育て支援事業について、長野市保育・幼稚園課等に活動の成果を提示しながら、平成28年度のこども広場じゃん・けん・ぼん（長野市の指定管理受託）事業への導入を要望したところ、長野市が行う「妊娠出産包括支援事業」と連携を図り、継続して実施されていくこととなった。

【選定のポイント】

地域で子育てを行う意識の醸成が図られるとともに、孤立感を感じていた利用者が孤立感の解消・軽減を感じているなど、親の心の安定と子育て意欲の向上につながった。平成28年度は市において予算化され、市の事業として実施されるなど、事業効果に広がりが見られる。

団体名 特定非営利活動法人ながのこどもの城 いきいきプロジェクト（長野市）	事業タイプ ソフト事業
連絡先 026-225-5467	事業費 2,086,198円
ホームページ http://www.na-kodomo.com/	支援金額 567,000円